

学習状況分析

学習面(国数理)

国語：全国、神奈川平均を若干下回る。思考判断表現の観点では「読むこと」よりも「話すこと・聞くこと」「書くこと」に課題が挙げられる。記述式の正答率が目立って低い。質問調査では、文章で書く問題の取組について、最後まで書こうと努力した生徒が例年より20%少ない。

分類	区分	対象問題数 (問)	平均正答率(%)			
			貴校	神奈川県(公立)	全国(公立)	
全体		14	53	55	54.3	
学習指導要領の内容	知識及び技能	(1) 言葉の特徴や使い方に関する事項	2	48.7	49.0	48.1
		(2) 情報の扱い方に関する事項	0			
		(3) 我が国の言語文化に関する事項	0			
	思考力、判断力、表現力等	A 話すこと・聞くこと	4	50.4	53.9	53.2
		B 書くこと	5	50.5	52.3	52.8
		C 読むこと	3	61.9	62.9	62.3
評価の観点	知識・技能	2	48.7	49.0	48.1	
	思考・判断・表現	12	53.3	55.5	55.3	
	主体的に学習に取り組む態度	0				
問題形式	選択式	8	62.9	64.8	63.9	
	短答式	2	71.0	71.8	73.6	
	記述式	4	22.9	25.4	25.3	

数学：全国、神奈川平均より下回る。「C 関数」の領域が特に低く、他の領域3%程度平均を下回る。記述式の問題が苦手な様子が見て取れる。質問調査では、数学を苦手と思う生徒が全体の70%を占め、例年に比べて苦手意識が強い。

分類	区分	対象問題数 (問)	平均正答率(%)		
			貴校	神奈川県(公立)	全国(公立)
全体		15	47	51	48.3
学習指導要領の領域	A 数と式	5	45.9	47.1	43.5
	B 図形	4	46.2	50.2	46.5
	C 関数	3	40.8	50.5	48.2
	D データの活用	3	54.3	58.1	58.6
評価の観点	知識・技能	9	53.2	56.2	54.4
	思考・判断・表現	6	36.7	42.6	39.1
	主体的に学習に取り組む態度	0			
問題形式	選択式	3	57.3	57.9	54.0
	短答式	7	49.3	53.5	52.0
	記述式	5	36.5	42.8	39.6

理科：全国、県の平均を下回る。問題によっては平均を上回っているものもあるが、記述式の問題では無回答が10%を超えるものもでてくるなど、苦手意識が見られた。(※図表は次ページに掲載)

全教科共通して、知識・技能よりも思考・判断・表現の正答率の全国・県平均との差が大きく、記述式の正答率が低い。

⇒知識・技能の乏しさが、思考判断表現の幅を狭めていると考えられる。また、書くことへの苦手意識がある。

問題番号	問題の概要	出題の趣旨	学習指導要領の領域				評価の観点			問題形式			正答率(%)			
			「エネルギー」を柱とする領域	「粒子」を柱とする領域	「生命」を柱とする領域	「地球」を柱とする領域	知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度	選択式	短答式	記述式	貴校	神奈川県(公立)	全国(公立)	
1(3)	地層1から地層4までの性質から、水が染み出る場所を判断し、その場所を選択する	露頭のどの位置から水が染み出るかを観察する場面において、小学校で学習した知識を基に、地層に関する知識及び技能を関連付けて、地層を構成する粒の大きさとすき間の大きさに着目して分析して解釈できるかどうかをみる				(2) (7) ㊷		○			○			39.6	39.4	36.2
1(5)	塩素の元素記号を記述する	塩素の元素記号を問うことで、元素を記号で表すことに関する知識及び技能が身に付いているかどうかをみる		(4) (7) ㊴			○				○			36.5	49.8	44.9
1(6)	水道水と精製水に関する2人の発表を見て、探究の過程におけるあなたの振り返りを記述する	科学的な探究を通してまとめたものを他者が発表する学習場面において、探究から生じた新たな疑問や身近な生活との関連などに着目した振り返りを表現できるかどうかをみる		(2) (7) ㊷			○				○			72.1	80.0	79.4
3(2)	抵抗に関する知識を手掛かりに、身近な電気回路に抵抗がついている理由を選択する	身近な電化製品の電気回路について探究する学習場面において、回路に抵抗がついている理由を問うことで、抵抗に関する知識が概念として身に付いているかどうかをみる	(3) (7) ㊴				○				○			81.3	87.1	85.2
4(1)	プロパンガスと都市ガスでシャボン玉を作ったときの様子から、プロパンガス、都市ガス、空気の密度の大小を判断し、小さい順に並べる	ガス警報器の設置場所が異なる理由を考える学習場面において、実験の様子と、密度に関する知識および技能を関連付けて、それぞれの気体の密度の大小関係を分析して解釈できるかどうかをみる		(2) (7) ㊷			○				○			54.3	49.7	50.4
4(2)	「一酸化炭素は空気より軽い」という性質を基に、適切な避難行動を選択する	火災における適切な避難行動を問うことで、気体の性質に関する知識が概念として身に付いているかどうかをみる		(2) (7) ㊴			○				○			86.3	93.7	92.8
5(1)	加熱を伴う実験において、火傷をしたときの適切な応急処置を選択する	加熱を伴う実験における実験器具の操作等に関する技能が身に付いているかどうかを見る		(2) (7) ㊷			○				○			92.4	93.4	93.0
5(2)	実験の動画と実験結果の図から、どのような化学変化が起きているか判断し、原子や分子のモデルを移動させることで、その化学変化をモデルで表す	化学変化に関する知識及び技能を活用して、実験の結果を分析して解釈し、化学変化を原子や分子のモデルで表すことができるかどうかをみる		(4) (4) ㊷			○				○			33.7	39.7	35.6
7(1)	小腸の柔毛、肺の肺胞、根毛に共通する構造と同じ構造をもつものとして適切な事象を判断し、選択する	小腸の柔毛、肺の肺胞、根毛に共通する構造について学習する場面において、共通性と多様性の見方を働かせながら比較し、多面的、総合的に分析して解釈することができるかどうかをみる		(3) (9) ㊷			○				○			42.1	36.5	34.8
9(2)	クリーンルームのほかに気圧を利用している身近な事象を選択する	気圧に関する身近な事象を問うことで、気圧の知識が概念として身に付いているかどうかをみる				(4) (7) ㊷	○				○			56.1	62.3	58.1

学習状況分析

生活面

○学校が楽しくない。10%▼（楽しい49% 過去最高）

→先生は、よいところを認めてくれていると思う。40.3%▲

→自分にはよいところがあると思う。84%▲（過去最高）

→先生たちは間違えたところを教えてくれないと感じている。→生麦:23% 昨年度より継続した傾向

→教え方や教材は自分に合っていないと思っている。→生麦:28%▲

→違う意見を聞くのが楽しくない。20%▼

→友達関係に不満足。9%▼

→日常に幸せな瞬間がある。幸せを感じることもある。90%▲（ない0%）

○発表の工夫をしている。62% ▼

→自分の考えをまとめる活動を行っている。59%▼

→総合では、自分で課題を立てて情報を集め整理して、調べたことを発表するなどの活動に取り組んでいる。80%▼

→学級活動における話し合いを通して、努力すべきことを決めて取り組んでいる 65% ▼

○平日全く勉強しない割合は少ない。休日は勉強しない割合が増加する。昨年度より継続した傾向

→少しだが、ICTを使った自主学習が増加している。

→塾に通っている率が高い。

→課題の解決に向けて自ら進んで取り組んでいない。24%▲

→学習した内容についてわかった点やよくわからなかった点を見直して、次の学習につなげていない。24%▼

→学習の工夫ができていない。24% 県:20%▼

→授業で学んだことを次の学習や実生活に結び付けて考えていない。30% 昨年度より継続した傾向

○朝食を毎日食べている。69.9%▼

○人が困っているとき、進んで助けていない。0%

→いじめはどんな理由があってもいけない、と断言できる生徒 71%▲

→道徳の授業では、自分の考えを深めたり、話し合ったりする活動に取り組んでいる。96%▲（過去最高）

○困りごとを大人に相談できない。31%▼

○地域や社会をよくするために何かをしたい。78%▲

○ICTの活用に関する質問項目の増加。→生徒たちにどれくらいなんの力がついているか。

【今後に向けて】

ICTをただ使うだけでなく、より学習に効果的な使い方、生徒に技能をつけさせる使い方をする授業改善が求められている。また、筆記の試験においては自分の考えを紙にペンで書くことを求められる。ICTに頼りすぎず、授業で得た知識を活用して自分の考えを形成する言語活動を重視したい。